

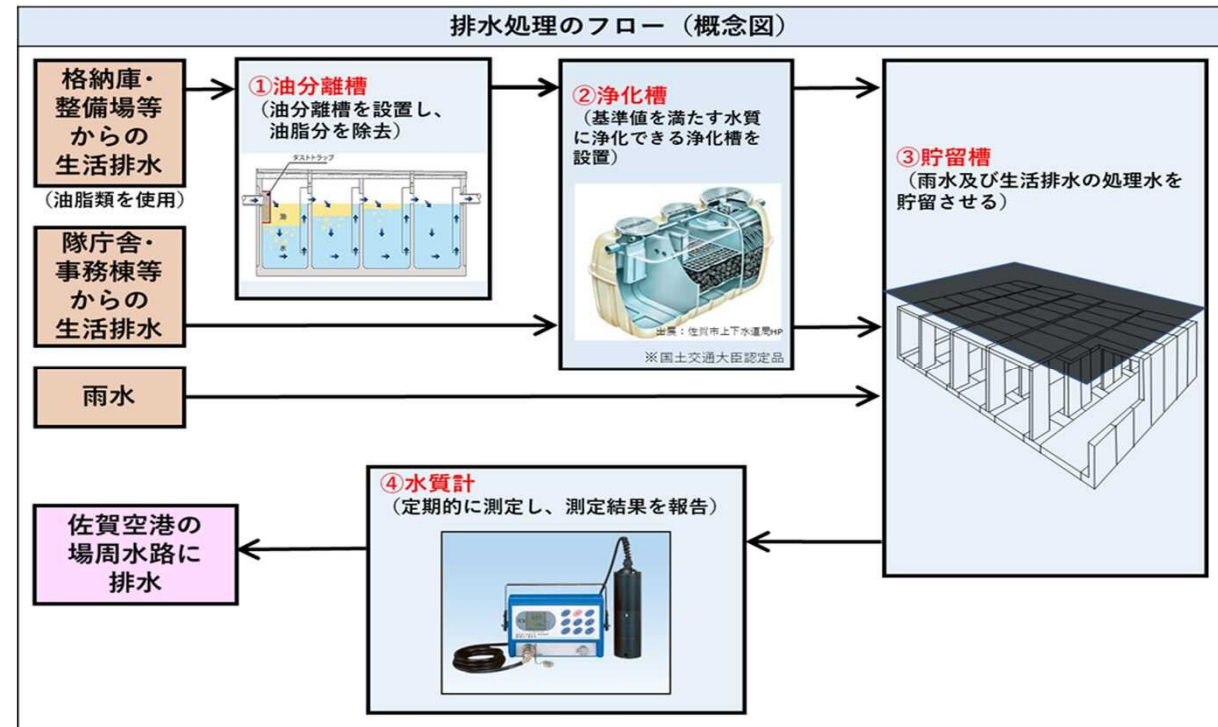
駐屯地完成後の排水対策について

◆ 駐屯地完成後の排水対策

駐屯地内に降った雨水は、貯留槽に一旦貯め、下流への影響を低減するため流量を調整した上で、空港の場周水路に排水します。

生活排水は、駐屯地内に浄化槽を設置し、基準値※以下に処理した上で、貯留槽まで流下します。水質を確認した上で、流量を調整しながら空港の場周水路に排水します。

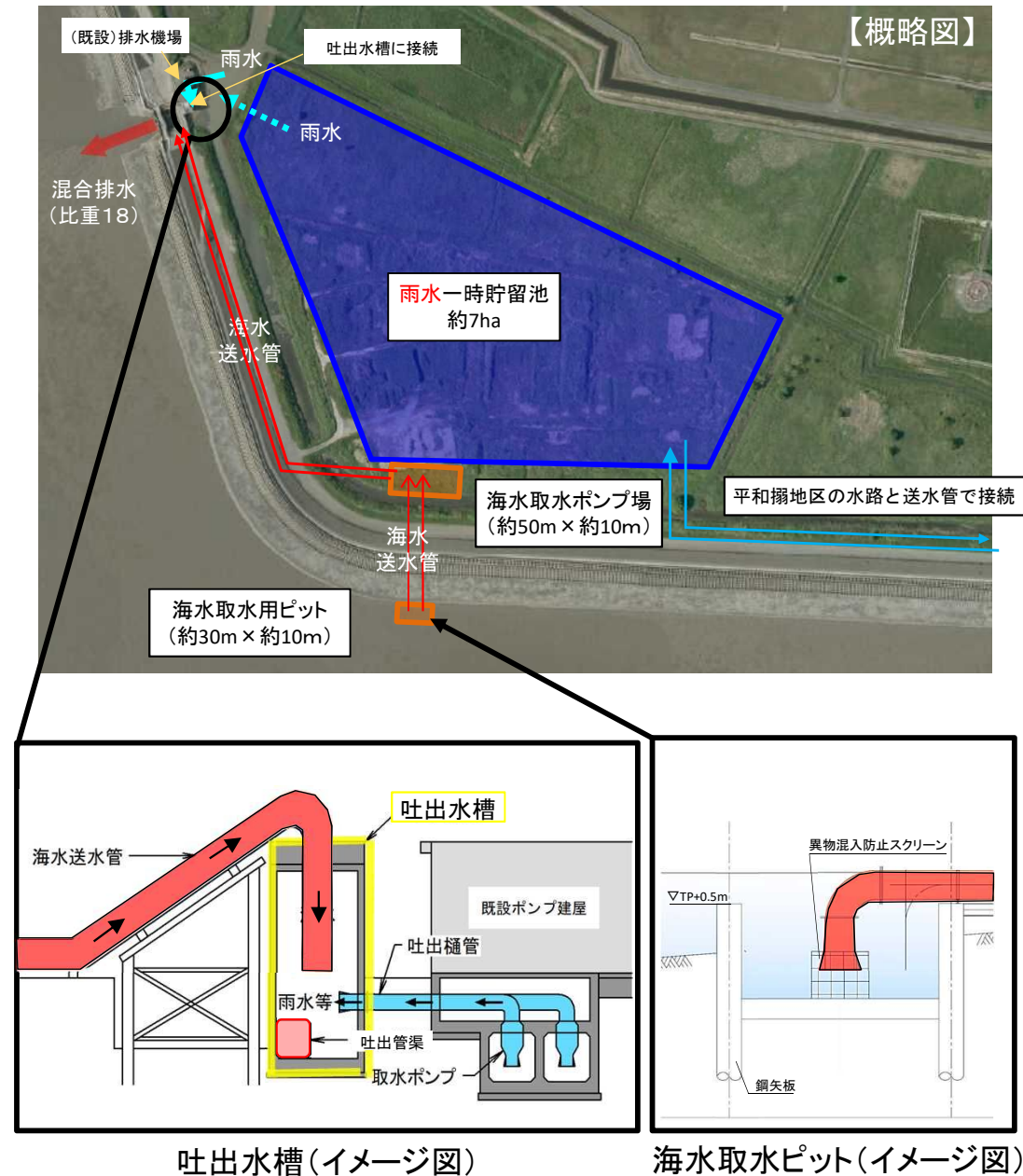
※ 関係法令や条例などの環境基準及び公害防止協定の基準値を満たすよう処理



雨水を海水と混合させるための施設について

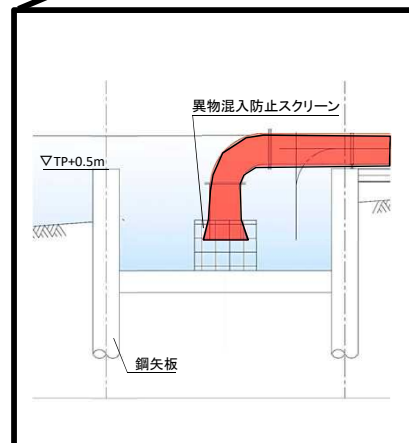
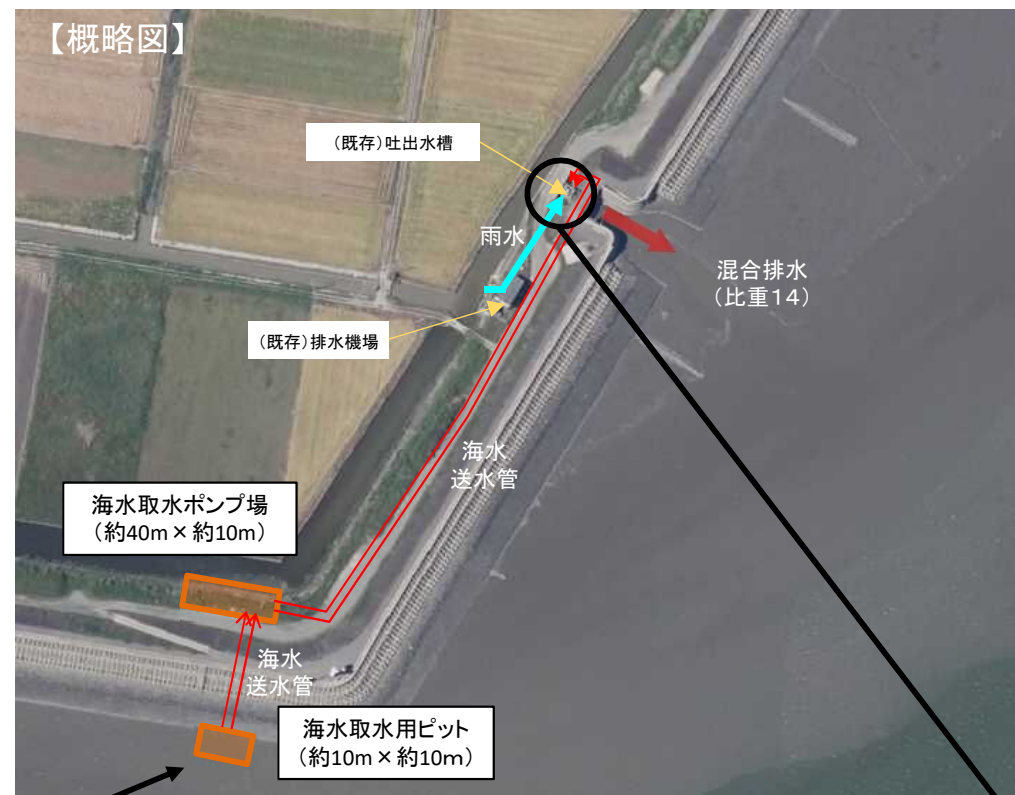
【国造潟樋門からの排水について】

- 漁協からのご要望のとおり、国造潟樋門は18以上の比重での排水となるよう調整。
- ノリ養殖への影響を考慮し、時間当たりの排水量は現状（ $2.3\text{m}^3/\text{s}$ ）と同じに設定。
- 海水（塩分28（比重20.62））と混合する場合には、雨水排水量の約7倍の海水と混合させる必要。
- 一時貯留池を設け、雨水排水量をコントロール。
- 海水は、堤防の外に設置する海水取水ピットから取水。
- その後、海水を排水機場の吐出水槽に送水し、この水槽内で雨水と混合。
- 吐出水槽内における海水と雨水の混合については、海水を上部から流入させることで、雨水と海水が十分に混ざる構造（シミュレーションによっても確認）。
- 有識者（有明水産振興センター所長、大学教授等）からの意見を聴きながら検討してきた内容。

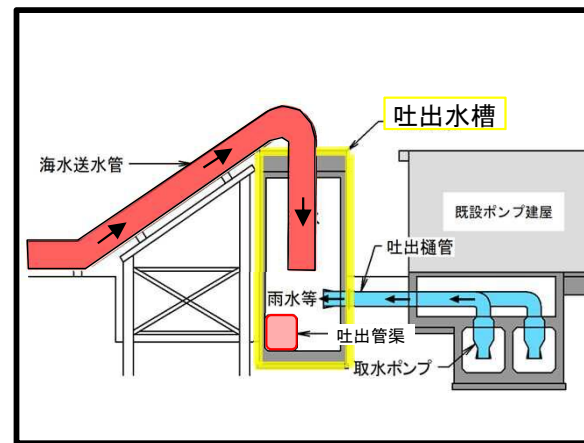


【平和搦樋門からの排水について】

- 漁協からのご要望のとおり、平和搦樋門は14以上の比重での排水となるよう調整。
- ノリ養殖への影響を考慮し、時間当たりの排水量は現状（約 $2.3 \text{ m}^3/\text{s}$ ）と同じに設定。
- 海水（塩分28（比重20.62））と混合する場合、雨水排水量の約2倍の海水と混合させる必要。
- 平和搦地区の雨水についても国造搦地区の一時貯留池に貯めることで、雨水排水量をコントロール。
- 上記の記載以外は、国造搦樋門と同様。



海水取水ピット(イメージ図)



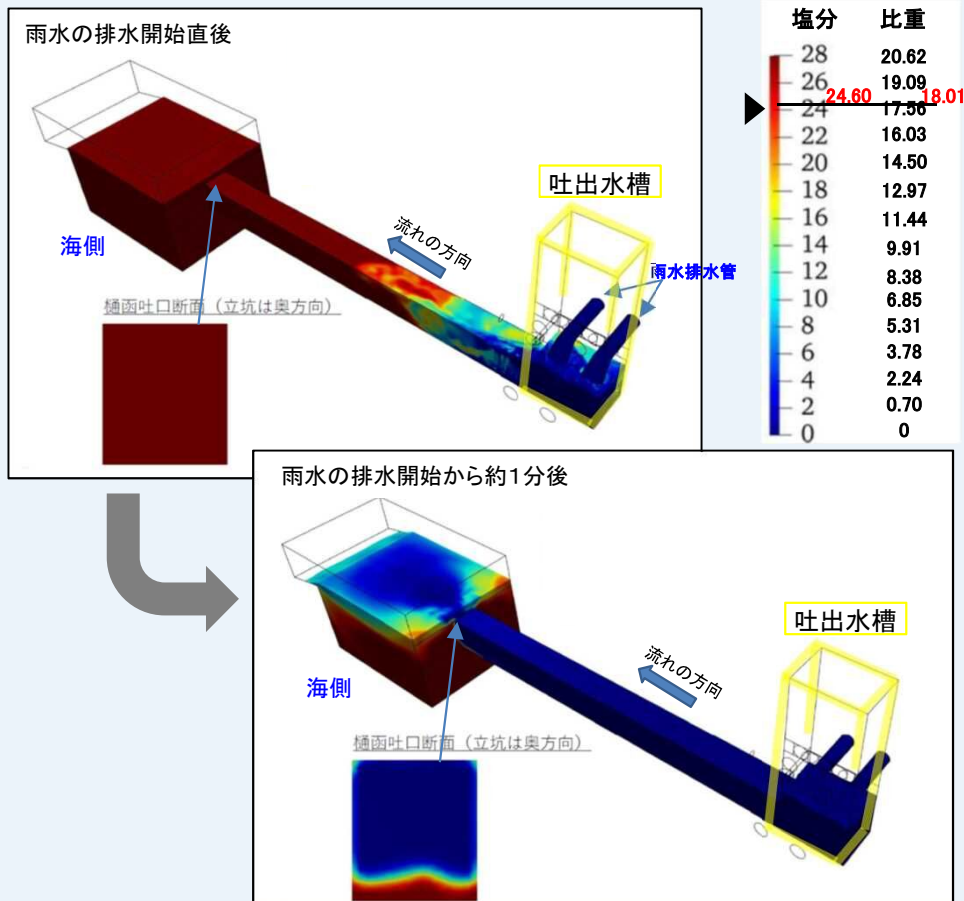
吐出水槽(イメージ図)

排水機場の吐出水槽内における海水との混合についてのシミュレーション

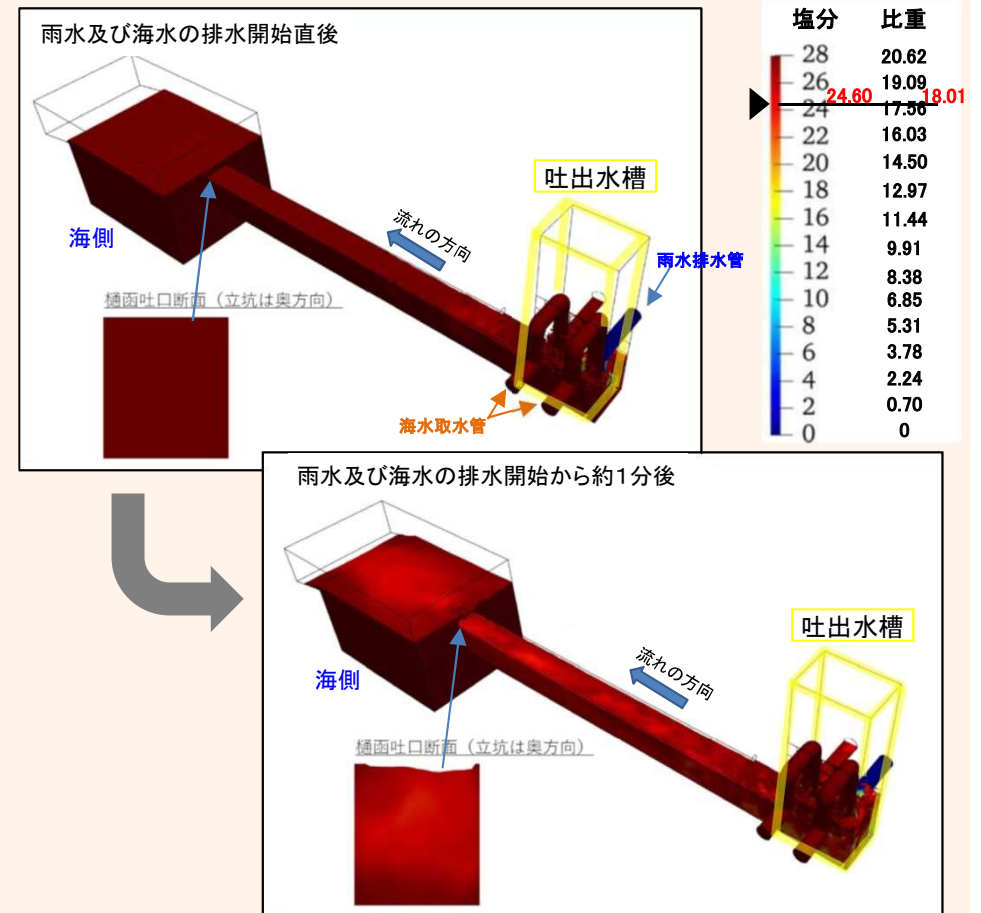
(参考)

- 樋門から雨水を排水する際には、排水機場の吐出水槽において海水と混合させる。
- この吐出水槽において、目標とする比重（国造掘樋門：比重18以上（⇒塩分24.6））とすることが可能かについて、流体解析ソフトを用いてシミュレーションを実施（海水を**赤色**、雨水を**青色**で表現）。

【雨水のみを排水した場合（現状）】



【雨水を海水と混合した場合】



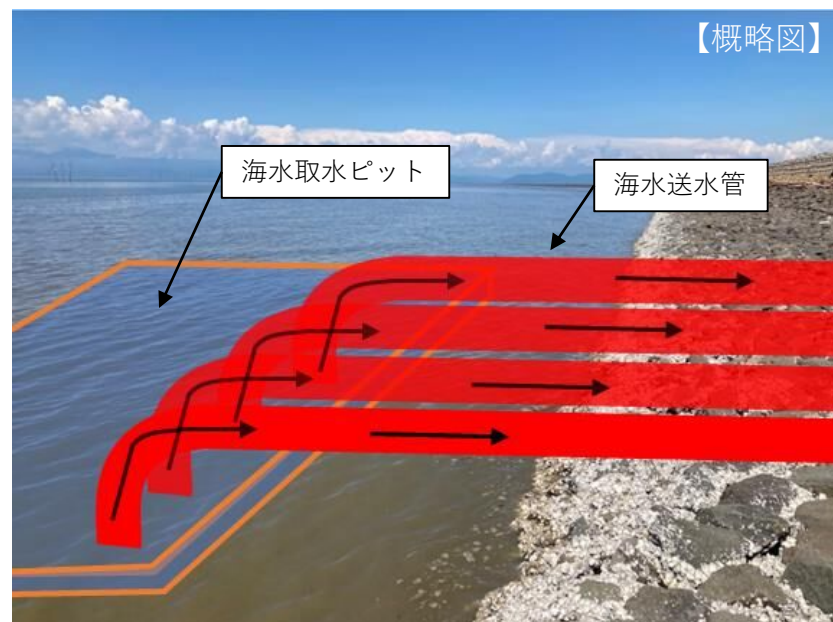
➤ 樋門の出口断面において、塩分はおよそ比重18(塩分24.6)に均一化

(参考) 雨水を海水と混合させるための施設について

吐出水槽部拡大



海水取水ピット部拡大



【国造掘樋門】

